

# 都市計画

CITY PLANNING REVIEW Vol.67 No.4

## 特集：埼玉を『解剖』する

333

### ◆地図の中の風景

大規模住宅団地が立地する埼玉県東部の埋没谷上の元低湿地 霜田 亮祐

### ◆支部トピックス

### ◆特集：埼玉を『解剖』する

#### 【巻頭言】

埼玉から都市を考えてみた 久保田 尚

#### 【埼玉の成り立ちを理解する】

埼玉県における都市整備事業史 川崎 周太郎

1960年代から1980年代の埼玉県における住宅地開発と都市政策 桑田 仁

#### 【埼玉の現状を俯瞰する】

埼玉県の経済及び産業構造の特質 松本 博之

隠れた観光資源 若林 祥文

ランドスケープ視点から埼玉の緑を読み解く 栗田 英治・寺田 徹

圏央道IC+市街化区域編入、地区計画、景観計画による誘導 古里 実

多様な地域性と埼玉の交通 小嶋 文

時代の潮流を見据えた埼玉の都市計画 埼玉県都市整備部都市計画課

圏央道沿線「変動通勤圏」における住宅地ストック再生をめざして 藤村 龍至

#### 【特徴的なエリアを分析する：成長する埼玉と転機を迎える埼玉】

歴史都市川越のあゆみ 荒牧 澄多

市民が発信する普段着の観光地づくり 市川 均

大宮・浦和・さいたま市の二都物語 内田 奈芳美

日高市こま武蔵台のいま 樋野 公宏

深谷市の街なか再生と都市構造 村山 顕人

さいたま市美園地区における新市街地開発の現状と課題 岡本 祐輝

水とともに暮らす「親水文化創造都市」越谷レイクタウンの街づくり 山本 直

#### 【新しい動きを捉える】

さいたまリエンナーレ2016 三浦 匡史

ジョンソントウンの再生プロジェクト 渡辺 治

飯能市と北欧のつながり 新井 洋一郎

埼玉県郊外住宅地における子育て支援 浅見 要

#### 【鼎談】

団塊ジュニア世代が見る埼玉 藤村 龍至×村山 顕人

内田 奈芳美

#### 【埼玉県の基礎情報】

【編集後記】 内田 奈芳美・村山 顕人

### ◆都市計画トピックス

持続可能な開発目標(SDGs)への地域的アプローチ 松本 忠

### ◆大会へ行こう!

大阪へ来たってや! 澤木 昌典

### ◆国際協力の都市計画

GISで見据える都市の高密化 小笠原 未歩子



# ジョンソントウンの再生プロジェクト

米軍ハウスと創造的なコミュニティ、新たなライフスタイルがつくる景観

渡辺 治 渡辺治建築都市設計事務所 所長

Osamu WATANABE

## ■「磯野スラム」からのスタート

ジョンソントウンは、埼玉県入間市（人口約15万人）、西武池袋線の入間市駅から徒歩約18分に位置する。地区の南側は富士見公園に接しており、農地解放時に接収された土地であった（写真1）。1945年、GHQがそれまでの陸軍航空士官学校を接収しジョンソン基地とし、1950年朝鮮戦争勃発時、基地増強のために民間に米軍ハウスをつくることを求めた。その時に磯野高会が米軍ハウスを24戸建設する。その後、1978年に基地が自衛隊入間基地に返還され、米軍ハウスは日本人向けに賃貸されたが、徐々に荒廃し、スラム化が進んだ。それに心を痛めた磯野達雄社長は、2002年、アメリカ留学経験がある建築家の渡辺治に「米軍ハウスという文化遺産を保全し、文化的で魅力的な町並みを形成し、元の自由で創造的で、家族を大切にする気風を持つコミュニティをつくっていききたい」と相談を持ち掛けた。この想いは渡辺も共通しており、以来15年以上の時間をかけて二人三脚で

まちの再生に取り組む。

## ■生まれかわるまち並みとコミュニティ：「安心安全タウン」の実現

この地区を再生するにあたって「将来の標準となる住宅」、「GHQの意思を受け継ぐ」ということを強く意識し、家族と暮らしながら理想的な職場にもなる福祉のまちづくり+いえづくり＝「安心安全タウン」の形成を目標とした。

老朽化、スラム化していた24棟の米軍ハウスは全て改修、保全された。米軍ハウスのDNAを継ぐ平成ハウス36棟が日本家屋に取って代わり、アメリカ風の特殊な町並みを形成するに至った（図1、写真2）。地区内には、日本家屋（将校の家）4棟、アパート6棟（セキスイハイムM1：docomomoに指定）も残され、有効に利用されている。

建物の再配置や回遊性のある街路の新設、街路のバリアフリー化、広場の新設、看板や色のデザインコードの指針の作成、使用規定の作成、インフラ（上下水道、街路や広場の

整備、電柱の路地への移設、雨水浸透、セキュリティシステム）の整備、植樹、レトルランの誘致、地域イベントの運営、コミュニティへの活動支援（ワンデーマーケットやイベント）などを行ってきた。

高齢化して子供が一人も住んでいなかったコミュニティは、若返り、子供が増えると同時に、障害者、高齢者、外国人、文化人が交流しながら家族と楽しく住み、文化活動を行う活気あふれるまちになり、150世帯、約210人（2016年現在）が住まうようになった。高齢者しか住んでいなかったまちに若夫婦が多く住み、10年前は一人もいなかった子供は50人を超えた。当初、街道沿いに数件しかなかったお店も、今は50軒を越えるまでになった。

2009年に「磯野住宅」から「ジョンソントウン」に改名し、現在は、子育てをしながら夢をかなえる若い家族、引退後にここでお店を運営している老夫婦など、新しいライフスタイルを求め、タウンを訪れる人は年々増加している。

